

## 弔 辞

つつしんで豊橋技術科学大学、前人文・社会工学系系長 故富田弘教授の御霊前に弔辞を捧げ、深く哀悼の意を表します。

生者必滅は世の習いとは申しますが、突然悲しい先生の訃報に接し、1週間前にお目にかかった時のまだお元気だったお姿を思い浮かべますとき、余りの急逝を信じることができません。御家族の皆様をはじめ、御親戚の方々の御胸中はいかばかりかとお察し申し上げ、いま葬送の列に加わり、ひとしお哀惜痛恨の窮みであります。

おもえば先生は昭和53年豊橋技術科学大学開学以来、初代の語学センター長として、また人文・社会工学系系長として本学の運営に多大の貢献をされ、常にオピニオンリーダーとしてのその斬新な発想は、新構想大学としての本学の数々の新機軸をもたらしました。

研究教育の面においても、御専門のドイツ文学からドイツ哲学にまで幅ひろく御活躍をされ、特に経験的、実証的な在日ドイツ俘虜の研究はこの分野でのパイオニアとしてつとに誉れ高く、坂東俘虜収容所のある鳴門市市長からその研究により表彰されたとか伺っております。

われわれは一般教養担当学系として工学部の学生指導はいたしません。しかし広い学識と豊かな人間性を持った先生の研究室にはいつも学生が溢れ、日本人学生のみならず多くの留学生からも慕われていました。

開学以来の十年間、自己の利害得失を顧みず、常に一つの信念をもって大学の向上のために、また御自身の研究教育のために粉骨砕身の貢献をされた功績はまことに著しく、筆舌をもっては尽くしきれません。

先生は常日頃から人文・社会工学系においても学生指導ができるようなればいと仰っていました。今こそ系の充実、整備が焦眉の急務でありまして、先生の卓越した識見とその斬新な発想とを必要とするときに、先生はこつぜん急逝され、再び先生の温容に接する機会を失ったことは誠に痛恨に堪えません。

しかし、先生の御偉業、御遺徳はとこしえにわれわれの胸中に刻まれ、豊橋技術科学大学発展の光として輝くことでありましょう。

ここに富田先生のありし日の面影を偲び、先生のご功績をたたえ、安らかな永久(とわ)の眠りをお祈り致しまして、私の弔辞といたします。

第8(人文・社会工)学系系長 大 呂 義 雄